

ドイツ連邦食料・農業省 最新農林漁業情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 6
2018・5・24

1 地元で新鮮な果物を：今 イチゴの季節 (2018・5・18)

この赤い果物は、ドイツで最も食されている漿果である。ドイツ人は、平均して1年間に1人当たり約3,5kgのイチゴを消費する。

地元で買う人の利点

イチゴは殆ど1年を通じて提供されている場合でも、やはり地元産のイチゴを待っている。これは、十分な芳香を放つときに収穫される。近場の完熟したイチゴは、味と並んで健康を提供する。なぜならば、十分成熟した場合のみ、我々は果肉100g当たりビタミンC 65gを摂取できる。完熟したイチゴは、買う際に完全に赤く色づき、頭と肩の部分に白いところの無いことが衆知されている。その上地元での短い輸送距離は、新鮮に収穫されたイチゴを、即座に消費者に届けることができる。そして味：イチゴの味を決める多くの物質が、完熟したイチゴに含まれている。

自分の庭やバルコニーで栽培

イチゴは植物園で見えるものでなく、採取する果物である。美味しい果肉は、花托の発達したものである。イチゴの本来的な果実は、赤い果肉にある極小さな実である。趣味の庭園には、形態、色、果肉の堅さ、芳香そして耐病性などを選んで、多くの品種を植栽できる。その上、一度収穫した後に二度咲きする品種も選択できる。最初が出回り期に1回目の果実を、そして収穫時期をらに約16日延長できる。二度咲き品種は、夏とそして少ないが秋の収穫期にも生産できる。

営利的な栽培

イチゴの営利的な栽培の面積は、ドイツにおいて14 000 haである。露地では、主に地面と同じ高さの畝で栽培されている。イチゴは、小さな盛り土をいわゆるビニールマルチで、被覆して栽培される。

この栽培方法の長所は、特に湿った土壌に際して、根の健康を良好な状態に保つ。ビニールマルチと温室で守られた栽培は、畝でもベンチでも数年来かなり増加し、面積は約 7%伸びている。これは早い収穫、果実の品質、労働条件に関しての利点を提供している。ドイツにおける農業者及び園芸家は、平均して年間約 15 000 t のイチゴを収穫している。

自分でイチゴを収穫

自分で収穫するために多くの可能性を活用する人は、特に新鮮な果実を手にする。その際、朝早く起きて手にできる。なぜならば、太陽が昇るに従い増々イチゴが柔らかく、そして傷みやすくなるからである。雨の際は収穫しないこと。なぜならば、濡れたイチゴは芳香が少なく、長持ちしないからである。

輸送と貯蔵

イチゴは非常に傷みやすく、そして貯蔵が限定される。そのため、収穫の際にイチゴを暖めないことに配慮する。4~5 日間の貯蔵は 0~2 ℃、そして空気中の湿度 95%で可能となる。だがしかし、芳香を良い状態で保つためには、貯蔵温度 7~10 ℃を勧める。

利 用

理想的な方法はイチゴを収穫の後、直接食べることである。購入の後でもイチゴは、可能な限り同日中に食べる。人気のあるのは、ジャム、甘いものそしてケーキにイチゴを調理することである。イチゴを 1 日置くことは長すぎる。そして幾分痛みかけたイチゴを、すぐ捨てる理由はない。ウェブサイトキャンペーン「ゴミ容器には良すぎる」を読んで、傷みかけのイチゴを魔法のように調理する方法を入手できる。

2 食料の確保は平和のための”保証人”である (2018・5・11)

ードイツ カトリックデーのパネルディスカッションー

連邦農業大臣クレックナーは、ドイツカトリックデーに関連して、EU ー委員 Phil Hogan (農業・農村発展のための EU ー委員) とのパネルディスカッションに参加した。これについて、クレックナーが説明した：” 共通農業政策が無いことは、今日考えられない。これはヨーロッパ政策の主要な柱である。非常に異なる地域でのヨーロッパ統合のために、この政策の重要性は高く評価される。

この政策の力は、外部にも効果を示している。つまり、世界飢餓と気象変動との闘いに際しても。我々の農業のノウハウは、アフリカの農業者を支援することに、多くの力を発揮できる。我々は、カトリックデーで特にモットー「平和を探求」のもとに集まった。このため、我々の農業者が鍵となる役割が重要となり、私にとっても重要となる。なぜならば、食料の確保は平和と安全のための「保証人」であるから。”

背 景

ミュンスターでの第 101 回ドイツカトリックデーの分野において、クレックナー大臣、ドイツカトリック教徒中央委員会のメンバー、神学を学ぶ人が、幾つかのパネルディスカッションに参加した。そこでは、テーマ「ドイツにおける正義」、「ポピュリズム」そして「信頼」のテーマに対する姿勢を、明らかにした。今日の Phil Hogan とのパネルディスカッションの内容：農業者と Zeo2（気候・文化・頭脳）誌に掲載

2018・5・23 訳 青森中央学院大学 中川 一徹
